

尚家継承文化遺産を国の重

琉球王国の工芸技術と美術的価値



玉冠の簪の花部
—おうかんのかんざしのかぶ—

美御前御揃—ヌーメーウスリー
国王の私的な生活の場である御内原での祝宴で用いられた
三御飾りの御道具揃いです。中央に鳳凰と牡丹文様の国王専
用の金杯と銀の脚杯や杯洗を置きます。右側には左巴紋と牡
丹で飾った深い蓋の二段重ねのウクファン(御籠飯)左側に多彩
なガラス玉で飾った錫の瓶子ウタマスキ(御玉貫)をつらえます。
これらの御道具類は王国の儀式を解明していく上で重要な資料で、特に金工品は僅少な琉球の金属工芸品として貴重です。



玉冠—ぎよ
国王が正
国の新しい
裳とともに上
立てて用い
水晶・碧玉
チャーブイと

王権を象徴した「宝珠双龍文」で袖には振りがあり、王子の
衣裳とされています。龍の鱗やひげには極細の筆で墨の輪郭
線が施された精緻な技法で制作されています。

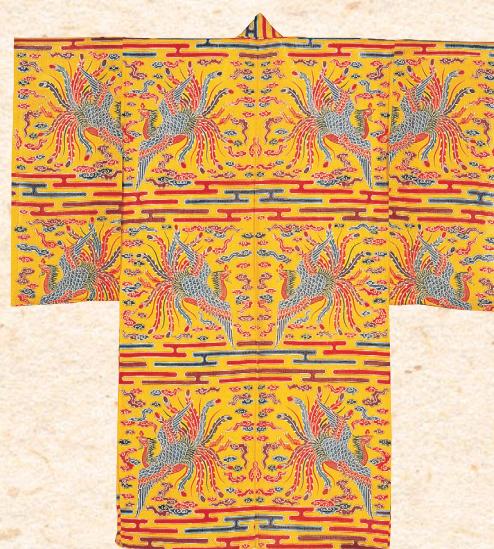


黒漆葡萄螺鈿箱
—くろつるしぶどうらでんばこ—
重ね色紙形で唐戸面の瀟洒な箱。
印籠蓋造りで内に懸子を納めます。
薄貝の螺鈿で表を葡萄や七宝繋ぎで、
懸子を水仙や梅樹菊唐草で飾ります。
貝には毛彫りや金箔の伏せ彩色が施
された精緻な技法です。



黄色地格子鳥二の字文様絢苧麻衣裳
—きいろじこうしどりにのじもんようかすりちよまいしよう—

黄色地に紅で格子、藍で鳥と二の字を表した斬新な絢。格子と絢の組み合わせは「ティジマ(手稿)」と呼ばれます。大柄であでやかな絢のデザインからは、王家の幼児衣裳に相応しい風格が漂います。



良質の白色陶土を筒形に輻輳成形をした壺屋焼
の風炉。上に釜をのせて、南蛮渡りの丁字を焚いた丁
字風炉でしよう。白地に色絵の壺屋焼きは類例品が
少なく、本品は最上品として珍重されたと思われます。

シンポジウム

琉球王朝の美 「尚家継承文化遺産」

日 時：平成14年10月9日(水)
午後6時30分～
場 所：パレット市民劇場
(パレットくもじ9F)

重要文化財指定記念 「尚家継承美術工芸品展」

日 時：平成14年10月4日(金)
～13日(日)
場 所：那覇市民ギャラリー
(パレットくもじ6F)



御絵図帳—みえずちょう—

王府が久米島や宮古・八重山などに税として織
らせた貢納布の図柄見本帳で、尚家には7冊残っ
ています。楮紙に染料や顔料で、原寸大に描かれた
絢柄370点が貼付されています。